

Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 大きな柏の木のそばの池

種類 キャンバスに油彩

サイズ 46.5×65.5cm 仏M15号

「Michel RODRIGUE」鑑定書付き
ENVIRONS DE PONTOISE, OISE
オアーズ川近郊

略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、
ピレネー山脈やランド地方などを頻繁に旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。
友人にレイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が凜冽な表情を示していると
いったモチーフを好んで描いた。
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。

フランス バルビゾン派 七星の一人
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、
日本を含む各国の美術館に多数収蔵